



Doctors File

ドクターズ・ファイル

vol.14216

百瀬 満副院長

百瀬医院(杉並区/荻窪)

2017年11月にリニューアルオープンした「百瀬医院」。バリアフリーの院内は、車いすのまま診察室や検査室、広いスペースのトイレに移動することが可能だ。現副院長の百瀬満先生は、循環器の中でも心臓を専門とし、東京女子医科大学に長く勤務。同大学画像診断核医学科でも研究を続け、心臓疾患の診断と治療に豊富な経験をもつドクターだ。「専門を生かしながら、地域の医院としての役割をしっかりと忠実に果たしていきたい」と穏やかに話す。隔月で発行される医学雑誌の編集委員長としても活躍するなど忙しい日々を送る百瀬副院長に、医院や診療のこと、専門である循環器の話などたっぷり語ってもらった。
(取材日2017年12月8日)

開院から100年以上、代々受け継いできた地域診療

2017年11月1日にリニューアルオープンされたのですね。

当院は1913年に祖父が亀戸に開院し、戦後にこちらの場所に移りました。現在は、祖父の後を継いだ母が院長をしているのですが、もうすぐ私が引き継ぐ予定です。母は主に小児科、私は内科・循環器内科の診療をしています。移転前はこのすぐ隣の2階で診療をしておりましたが、高齢の患者さんも増え、ご不便をおかけしてしまうと思いこちらに移りました。これまで階段を上って2階まで通ってくださった患者さんからは、とても楽になったという声をいただいています。同時にバリアフリーの造りにしておりますので、車いすの患者さんもそのままお入りいただくことができますし、院内薬局を備えていることにより、時間的にも費用的にも患者さんの負担を減らすことができます。

どのような患者さんが多く来院しますか。

この辺りは、健康への意識の高い人が多く、病気に関する情報を求めるタイプの方が多く感じています。そのため、病気や薬のことについてきちんと話をすることを心がけています。患者さんの割合としては、大人と子どもが4対1ぐらいで、高齢の患者さんも多いです。ご高齢になると、既に病気をもっている方も多くいらっしゃいますし、年を重ねるにしたがって体に関する数値が悪くなっていきます。そういったところに対する不安や恐れ、悩みに対しても、コミュニケーションをとりながら診療するようにしています。また、この近くに私が勤めていた東京女子医科大学病院の関連病院である荻窪病院があるのですが、そこで処置を受けた方が逆紹介のような形で当院にいらっしゃいます。そういう方々に対しても生活習慣の改善の指導など、病気が再発しないようフォローアップしていきたいと考えています。

リニューアルにあたって医療設備なども一新したと伺いましたが、特にこだわったものなどありますか？

設備を選ぶときには、メーカーの方とずいぶん議論しました。費用面も大事ですが、より機能的だと思えるものを購入しています。2者あれば、価格ではなく、どちらの機能が優れているかを考慮して選びました。心電図に関しては、動脈硬化と血管年齢を同じ機械で測定することができます。場所もそんなに広くは取れませんが、機械が1台で2台分の機能を備える機器なども導入しています。CTやMRI、心筋シンチグラフィーなどを用いてより詳細な検査が必要な場合は、そのような機器を備えた病院に依頼します。今でも東京女子医科大学病院で週に1回診療していますので、当院の患者さんで大学病院での検査が必要な方は、私の勤務日に予約していただき、私自身が検査し評価を行っています。



「正確な診断で、体への負担が少ない治療」を大切に

循環器を専門に選んだ理由をお聞かせください。

昔は研修医制度がなく、大学を卒業してすぐに専門を決める必要があったのですが、その時に心臓について学びたいと思ったため循環器の医師をめざしました。特に、心臓の最前線の医療にたいへん興味があったんです。救急の患者さんが治療を受けていく段階や、治って帰っていく様子に感銘を受けましたし、精密な検査や患者さんのケアなどにも関心がありました。心臓という臓器そのものへの興味、生理学や生化学など学問的な興味も強かったですね。私の専門は循環器の心臓の中でも、画像診断、具体的には心臓核医学検査、心筋シンチグラフィーです。23年ほど専門としてやってきました。内科は、全身のさまざまな検査を行う場面が多い科ですから、検査から診断ができるというのはひとつの強みだと考えています。

ドクターズ・ファイル
スマートフォン版



「イマチカ検索」で
今から診てもらえる
近くの医院・病院をボタン1つで検索！

ドクターズファイル



こちらの医院のマークは、そういった先生のご専門をモチーフにしたデザインだと伺いました。

私がこれまでずっと携わってきた心臓に関する仕事を取り入れながら患者さんを診ていきたいという想いを込めてデザインしています。ハートは心臓を、中の円は画像診断時に浮き上がる心筋のシルエットを表現し、心電図の波形も取り入れました。大学病院でも外来の患者さんを中心に診療していましたので、こちらの医院でも同レベルの診療を提供する体制を整え、大学病院と遜色ない診療内容ができるようにしています。

診療方針や理念などについてもお聞かせください。

正確な診断をして、適切な治療をすること。そして、できるだけ体への負担が少ない検査や治療を選ぶことを大切にしています。最近では心臓の検査というと、入院して動脈からカテーテルを入れる検査をすぐに行う傾向がありますが、当院では心臓のCTやMRI、心臓の核医学検査など侵襲の少ないとされる検査をして、適切な評価をすることに努めています。患者さんの状態に合わせて、体に負担の少ない検査で評価した上で、さらに検査や治療が必要であれば、大学病院などに紹介してより高次の検査や治療を受けていただく。当院でできることがあれば、侵襲の高い検査を最初からする必要はないと考えています。



地域の医院としての役割を果たし、住民の健康を守る

医師をめざした理由、大学時代の思い出などお聞かせください。

祖父、父母、兄も医師でしたから自然に医師をめざしました。兄は7つ上で、私が医学部を受けた時点で医師になっていました。自宅で開業していましたので、父や母が診療している姿を見て、なんとなく小さいときから医師になろうと思っていましたね。大学では勉強の傍ら、オーケストラ部でバイオリンを弾き、スポーツはスピードスケートをしていました。夏合宿をしたり冬の大会にも出たりして、短距離では上位の成績だったんですよ。

診療の際に心がけていることなどありますか？

患者さんに単に薬を出して終わりというのではなく、生活上のいろいろな相談や悩みなどをしっかり聞いて、問題があればそれを変えていくことができるようなアドバイスもするようにしています。循環器というのは症状だけでは計り知れない部分があり、あるレベルまで悪くなってはじめて症状に出てくるものが多いのです。ですから、定期的な検査が大切になります。当院では、患者さんの病状の程度によって、年に1回、半年に1回など一人ひとりに合った検査の回数を決めてフォローしていきます。大学病院で循環器の専門としての長年の経験から、検査の結果を見れば、その患者さんの持つ将来的なリスクをお伝えすることができます。また、外国人の患者さんには、その国の言葉であいさつするようにしています。そうすると、ほっと安心された表情をされるんですよ。ちょっとしたことではありますが、小さな気遣いは大切にしています。

最後に今後の展望、読者へのメッセージをお願いいたします。

来院された患者さんの悩みや不安を聞き、コミュニケーションを取ること、正確な診断、適切な治療をすることをずっと大切に、一人の患者さんをしっかりフォローしていきたいですね。地域の医院としての役割をしっかり果たしていきたいと思っています。より詳しい検査や高次の治療などが必要な場合は、大学病院などに紹介します。地域の医院としては一般的なこともかもしれませんが、そういうことを大事に忠実にやっていきたいと思っています。読者の方へのメッセージとしては、気軽に来院して診療を受けていただきたいと思います。気になることがありましたら気軽にお越しください。

DATA

百瀬医院

〒167-0033 東京都杉並区清水2-5-5

TEL: 03-5311-3456

最寄駅: 荻窪駅

内科 小児科 循環器内科



▲詳細はこちら